

●**里山農園通路に土砂投入土嚢 200 袋分** 新しい土砂の補強がされて見栄えが良くなりました。里山農園の道路は軽トラックなど重量物がなかった時代そのままの通路なのでスピードと重量のある運搬には適していません。たちまち轍が掘れてしまいます。これまで通路の補強には随分と時間をかけました。特に弱くなった場所などには杭を打ち込んできましたが、その杭も徐々に朽ちて路肩が弱くなりました。路肩補強の必要性も急がなくてはなりませんが、土砂が確保できましたので、とりあえず土砂の補強で急場をしのぐことにしました。また農具小屋前広場は低く水が溜まりやすくなっているので、土砂補強を実施。水たまり解消までにはいきませんが少しは役だったようです。

●**里山農園の運営について相談会** 7日(火)13時から里山の会事務所で開催。2018年度の里山農園の運営についての相談会を予定しています。どなたでもご参加ください お待ちしています

●**整備協力金負担駐車場の整備を実施** 3日(金)9時 草内の里山の小屋前にご集合ください。駐車場案内の看板 20か所の設置を予定しています。なお茶畑への侵入防止網を設置します。

●**里山の会 マラソン準備進む** いよいよ次の日曜5日には5999人のランナーを迎える大会が迫ってきています。里山の会が受け持つ部署(選手送迎 整備協力金負担駐車場 手原川エイド ゴール給水 コース管理など)の準備と整備が整えられてきました。27日には草内倉庫に保管している備品の運び出しを行って、点検ができるようになりました。又午後には、駐車係と関係者(山下深田播川大村森島シルバーセンター警備会社)が草内倉庫に集まって最後のリハーサルを実施、問題点課題を調整が完了しました。これまではランナーやスタッフのマナーが悪く、駐車券の明示をしないで、顔パスで受付を素通りされる方が多いと指摘がありました。また予約駐車場であることを無視する車も数多くあります。対策として、原則通り駐車券の無明示の車は、当日利用者扱いで、割り増し駐車料金を納めていただくことを確認しました。特にスタッフの方々は駐車券の明示をお願いいたします。近頃各地の大会でマナーの後退が目立っていることが、報告されています。木津川マラソンでは駐車場での置き引きが発生しています。パトロールや見回りを強化しています。このままいくと大会そのものの開催が不可能になる事態への可能性もございます。

また天候について随分と心配していますが、前日などの準備段階では降雨の心配はないとの予報です。しかし当日の午後には降水確率も上がるとの予想となっています。各自で対応準備をお願いいたします。当日は早い部署では6時30分スタッフ集合というところもあり大変お世話になりますが、どうかよろしくお願いいたします。

●**東北支援の大看板 設置進む** 東北地方の10か所のマラソン大会へ参加者によるサインをいただいて激励旗を送り続けてきています。そのサインをしていただくための大看板 20mの建設組立が進んでいます。大会会場は大変広大ですが、さすがに 20mの看板は迫力があります。激励旗を送らせていただいた大会では大会当日はもちろん、終了後や大会前にも公民館などで飾って披露いただいている報告が届いています。一日も早い復興を願う激励が受け止められているようです。

●**1日午後 入場ゲイト取付が完了** 大会の大きなシンボルが歓迎ゲイトです。3年前に新調したゲイトの建て込みは高さがあるなかなか難しいものです。以前のものは木製で更に大掛かりで重くて素人ではくみ上げることができませんでした。なるべく自分たちで組み立てられる軽量化と簡単なものをと工夫改良がさ



れましたが、それでも簡単に扱えるものではありません。組み立てるのは 1 年に一回ですので 3 時間はかかります。高さが 4.5m ありますので、非常に難しい大型の建造物ですが、徐々に思い出し慣れながら苦勞しています。今年も里山の会のメンバーが大奮闘しながら整えました。

●34 回大会の参加人数過去最高の 5999 人となっています。これまでの最高は 29 回大会の 5960 人でしたので、わずかに上回りました。スタッフは 800 人を超えているので、最高人数となっています。開会式前のイベントでは子どもたちのチアガール 60 人が日頃の練習の成果を発表して華を添えていただきます。宇治田原の太鼓サークル「萌」の演奏もスタート場の雰囲気盛り上げてくれます。今年はスタート場の実況アナウンサーを配置して会場全体に臨場感の雰囲気を広げていただく予定にしています。開会式には、石井明三京田辺市長、桑島偉倫国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長、国会議員などが出席いただき歓迎のあいさつを予定しています。5 9 9 9 人の全出場者名簿を掲載したプログラムも完成して、祝辞が近隣自治体の方々京田辺市長 八幡市長 城陽市長 木津川市長 精華町町 宇治田原町長 久御山町長 京田辺市社会体育協会長 京田辺市観光協会長 西山哲郎教授氏から寄せられています。ちなみに初回は 1984 年太陽が丘陸上競技場をメイン会場として宇治川左岸を下り隠元橋を渡って右岸を高速道路点の折り返す 20 km コース、5 km 3 km は運動公園内でした。受付人数は 457 人で、当日は大雪が降り、早朝から竹ぼうきや鍬・スコップをかき集め思いもよらない雪かきで、交通機関も遅れるなど開会時間の繰り下げを行いました。初回から思いもよらないアクシデントに遭遇しました。それ以後「やましろ新春マラソン」コースを宇治市・宇治川から京田辺市・木津川に移っても数回の悪天候の下での開催となり、天候に恵まれない雨雪の大会として有名で、選手も覚悟して申し込みされていたようです。

●カスミサンショウウオ成体発見について京都新聞社から取材に来訪 30 日 先週号で紹介させていただきましたが、京都新聞社が取材に来られました。

●マラソン大会の新しい取り組みや特徴について「お知らせいたします。これまで視聴覚障害者団体の 250 人のボランティア支援が 34 回から不可能になって、それへの対応が最大の課題で、その対応が大会の成否を左右するものとして、実行委員会は全力を傾注、ようやくその対応へのめどが整って、当日を迎えることができました。

- 1 連続 6 年目東日本大震災復興支援を実施。 2 全国でも数少ない制限時間のない大会
- 3 ペースランナーが完走目指してサポートする大会。 4 エイドと給水 16 か所を設置するサービス満点の大会
- 5 子育て中の皆さんに「託児所」を設置しています 6 1 km ごとに距離表示を設置、マイペースで走れる大会
- 7 種目表彰以外に年代別表彰も実施 8 「初心者のためのフルマラソン講習会」の開催
- 9 ボランティア 800 人の心温まる手作りの大会 10 暖かいおうどんと飴湯のサービス、足湯も設置

●2 月 23 日河川協力団体の学習会 13 時～15 時 中央公民館

3 月 1 日京都府北土木事務所 城陽文化パーク

道路河川ボランティア研修会 里山の会活動紹介

3 月 4 日 第 22 回自然と環境講演会 カスミサンショウウオについて？